

新宿区立漱石山房記念館 令和7年度第1回運営学術委員会 議事概要

日 時：令和7年9月12日(金) 午前10時から12時まで

会 場：新宿区立漱石山房記念館 地下1階 講座室

出席委員：半田昌之会長、中村廣子副会長、大木志門委員、佐藤裕子委員、松下浩幸委員、
山岸吉弘委員、吉川友子委員、小泉雅一委員、守谷賢一委員、村上京子委員、
北見恭一委員（11名）

欠席委員：大木真徳委員、河野奈美江委員、山口進委員、波多江誠委員（4名）

事務局：新宿区文化観光課

神崎章（文化観光課長）、大塚孝之（文化資源係長）、山田郁也（文化観光課主任）、
久米美弥子（文化観光課主任・学芸員）

財 団：公益財団法人新宿未来創造財団（漱石山房記念館指定管理者）

岡崎保（文化・芸術振興部長）、嘉山澄（漱石山房記念館係長）、今野慶信（漱石山房記念館学芸員）

1 【次第】

1 展示見学

（1）通常展《テーマ展示》「そうせきとどうぶつたち」見学

2 議 事

（1）通常展見学の感想等について

（2）令和6年度記念館事業等の実績

（3）令和7年度上半期の記念館事業等の実績及び下半期の事業予定

（4）令和8年度記念館事業等の予定

2 【議事概要】

（1）通常展《テーマ展示》「そうせきとどうぶつたち」感想等について

- ・参加型の取組みが高く評価できる（「手配書」）。今後も続けて取り組んでほしい。
- ・今回の展示はビジュアル中心だが、動物と漱石作品の文脈とのつながりが分かるとよりよかったです。作品が前面に出る展示構成にして、漱石文学を味わう体験につなげてほしい。
- ・子どもにもわかる解説、ビジュアル、参加型、連携等を実施していると評価できる夏休み展示だ。
- ・漱石の生きた当時の光景や時代背景が分かる展示だ。
- ・参加型は記憶に残るのでよい。解説が大人向け、子ども向けと2種類あり、大人が子ども向け解説を見ても端的に内容が理解できてよい。

- ・はじまりの挨拶文が、一般の大人口向け、子ども向け2種類あることが評価できる。
- ・子どもたちに展示を楽しんで観てもらいたいという気持ちと努力が感じられて好感が持てた。
- ・展示室のスペース上の制約から展示資料の点数が限られているところが課題だ。展示された美しい装丁の初版本などからも実物の魅力を再認識した。
- ・子どもにとって興味関心の向くテーマ設定を今後も期待する。館内設置のガチャガチャ等も、人気のあるものを取り入れていてよい。また新宿歴史博物館とのコラボレーションも相乗効果が期待されて評価できる。
- ・参加型企画「手配書」は700名以上の入館者が参加したということだが、保存や公開する計画はあるか。

※記念館から、参加型企画「手配書」今後の保存公開方法について説明を行った。

- ・館内に設置されたアクリルスタンド撮影ブースについて、ショップで販売している漱石のアクリルスタンド以外にも、例えば持参した自分の推しアカスタと漱石の共演のように写真が撮れるとよい。

(2) 令和6年度記念館事業等の実績

◆アンケート集計について

- ・「居住地」の選択肢『その他』内訳については詳細にわかるほうがよい。地域的特性が分かれれば、連動してPRできることがあるかもしれない。
- ・「情報入手先」の選択肢に『SNS』を加えるべきである。『SNS』でも公式かそれ以外のアカウントなのかが分かれば、PR時の検討材料活用できるのではないか。
- ・「情報入手先」の『家族・友人から』1,100人というのは非常に良い結果で、とても大事にしなくてはいけない。SNSの活用やアンケート結果を取り入れながら効果を測り運営していくことが必要だ。

※記念館から、アンケート選択肢について情報取得方法を工夫し、情報発信に活かす旨の説明を行った。

- ・アンケート回答者にはちょっとしたプレゼントを差し上げるとか、現在の紙媒体だけでなく電子でも回答を可能にする等、今後も工夫をお願いしたい。

◆観覧料について

- ・アンケートに「観覧料が安くて驚いた」という声があったが、どう考えるか。

※漱石山房記念館条例で定められている金額で運用している旨の説明を行った。

(常設展開催時・一般300円、特別展開催時・一般1,000円を上限とする)

(3) 令和7年度上半期の記念館事業等の実績及び下半期の事業予定

- ・子どもが関心を持てるよう、大人用あいさつ文、子ども向けあいさつ文の2種を設ける工夫や、ひとつの企画に1枚でもいいので子どもが持ち帰れるものがあるといい。
- ・新宿歴史博物館とのコラボ（「そうせきとどうぶつたち」展で実施）はとてもいいので、ほかの区立施設とも連携して、小中学生に利用してもらう機会を積極的に作っていくことはできなか。

(4) 令和8年度記念館事業等の予定

※次期指定管理者の候補団体として、公益財団法人新宿未来創造財団が令和8年度事業予定を説明した。

- ・漱石熊本時代の展示を夏に、「坊っちゃん」展を秋に開催する予定とのことだが、どちらも子どもが興味を持てる展示にすることができるかが課題だ。「旅と漱石」としたら自然に入れ込めるのではないか。